

研究に関するお知らせ

研究課題名：食道癌術前化学療法の奏効と再発形式の関連を明らかにするための
多施設共同後ろ向き観察研究
(略称：術前化学療法の奏効と再発形式に関する研究)

本研究は慶應義塾大学医学部倫理委員会で審査され、医学部長の許可を得て実施しています。当院も本研究の主旨に賛同し、病院長の許可のもと既存試料・情報提供機関として参加しております。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「7 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2010年1月1日より2015年12月31日までの間に、新潟市民病院にて食道癌の治療のため入院し、手術を受けた方

2 研究実施機関

慶應義塾大学病院 一般・消化器外科

共同研究機関

日本食道学会 食道外科専門医認定施設、ならびに準認定施設

研究責任者

北川 雄光 慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器） 教授

当院研究責任者

桑原 史郎 新潟市民病院消化器外科 副部長

3 本研究の意義、目的、方法

食道癌に対しては、化学療法と手術を組み合わせた治療が発展し、治療成績が向上しています。一方で、食道癌に対する手術治療は、患者さんの体への負担が大きく、一定の確率で手術後の合併症が発生することがわかっています。そこで、手術前に行った化学療法が非常に良く効いた場合に、当初予定されていた手術ではない方法（化学放射線療法など）を選択し、手術を回避する試みが始まっています。しかし、手術を回避することにより、食道癌が広がり、根治の機会を逸してしまうことも懸念されます。

そこで、過去に化学療法を行った後に手術を行った食道癌患者さんを対象として、その効果と、遺残腫瘍や、手術後の再発形式に関する検討を行うことを計画しました。

本研究の計画は、日本食道学会において承認されており、全国の食道外科専門医認定施設、準認定施設(https://www.esophagus.jp/public/list/certified_facilities_list.html)の協力を得て行います。

各施設の臨床情報の授受の際には、個人を特定できる氏名、生年月日、各病院のIDは匿名化されておりますので、個人が特定されるようなことは極めて稀です。データは、慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器）においてハードディスクに保存の上、データ保管用金庫で管理されます。

4 協力をお願いする内容

本研究は、過去の診療の記録より収集されたデータを使用するものです。具体的には、病気の進行度、治療内容（化学療法の内容、手術の方法など）、治療後の経過（再発の有無やその他の疾患の発症）、血液検査の項目等が含まれます。試験参加の有無により治療方針が変更されることはありません。先述の通り、本研究に登録された時点で、個人を特定することができる情報はありません。その対応表は、各施設に保管されており、最終的に慶應義塾大学病院一般・消化器外科 医局の鍵付きの保存場所に保管されます。本研究では、協力費等の支給はありません。

5 本研究の実施期間

研究実施許可日～2023年3月31日

6 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名、生年月日等を除くカルテ記載のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの臨床情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。

7 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、臨床情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

研究責任者 慶應義塾大学医学部 外科学（一般・消化器）

教授 北川雄光

TEL：03-5363-3802（外科学（一般・消化器） 直通）

当院研究責任者 新潟市民病院消化器外科

副部長 桑原 史郎

TEL：025-281-5151